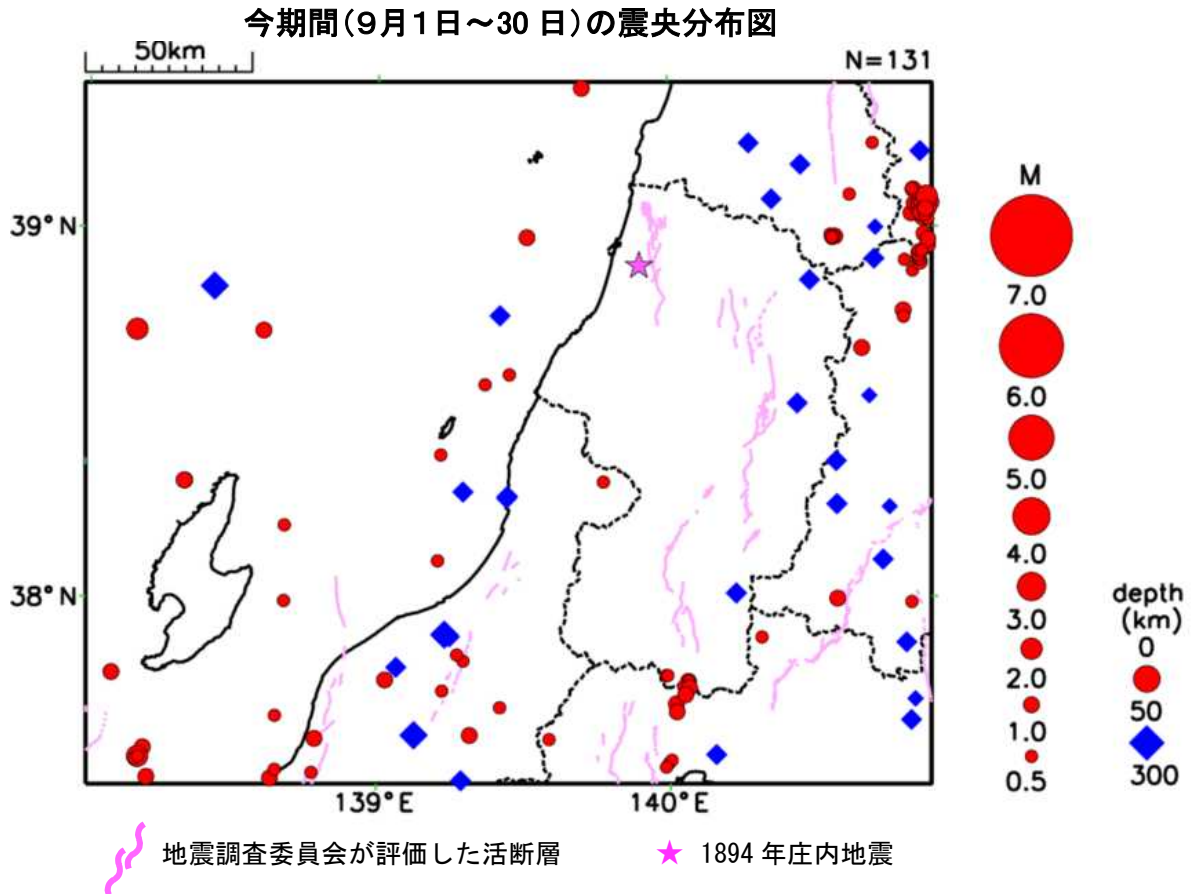


山形県月間地震概況（2024年9月）

山形地方気象台



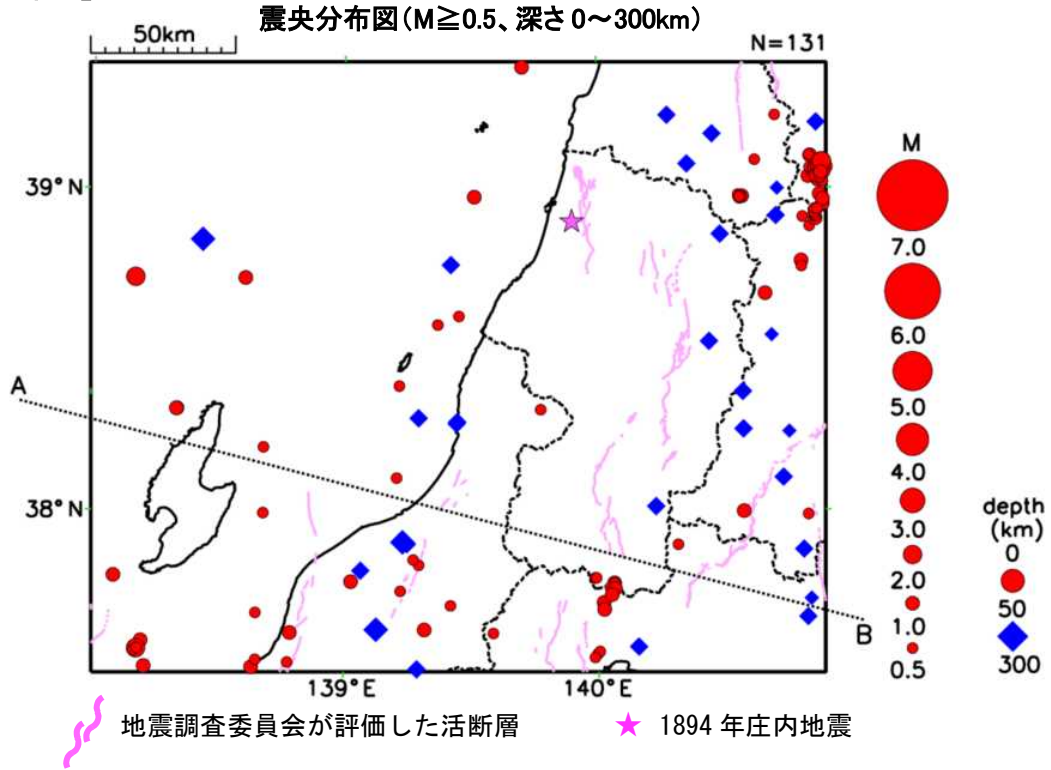
【概況】

この期間、山形県とその周辺(上図の範囲内)で観測した地震は131回であった。また期間中に県内で震度1以上を観測した地震は0回(前期間3回)であった。

この期間、特記すべき地震は発生しなかった。

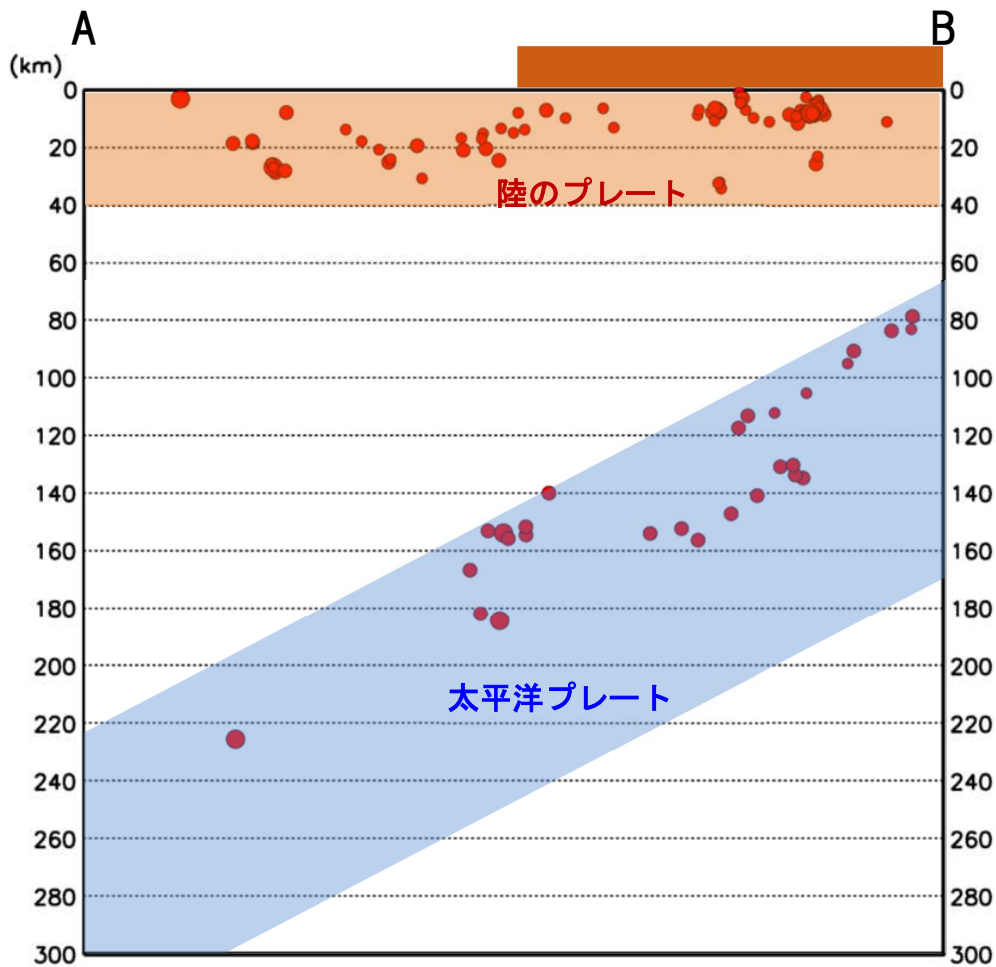
※本資料では、地震の規模を示すマグニチュードを「M」として表記している。

【震央分布図】



【断面図】

断面図は震央分布図内の震源を直線 A-B(太平洋プレートの沈み込む方向)に投影したものである。



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。なお、沖合いの地殻内で発生する地震の震源は、実際はより浅いものが多いと考えられる。

11月5日は津波防災の日です

「津波防災の日」とは、平成23年3月に発生した東日本大震災を受けて、平成23年6月に制定された「津波対策の推進に関する法律」により、津波対策についての理解と関心を深める目的として定められた日です。安政元年11月5日^{*}に大きな津波被害をもたらした安政南海地震で、大津波から村人を救ったとされる「稲むらの火」の逸話にちなんで、11月5日を津波防災の日としています。津波防災の日の前後に津波避難訓練を行う自治体もあります。皆さんも、津波からの避難について職場や家庭で話し合う機会とし、津波避難訓練が行われる地域にお住まいの方は訓練に参加しましょう。



^{*}安政南海地震の発生日「安政元年11月5日」は旧暦での日付であり、現在の歴では1854年12月24日となります。

日本海側の津波は思っているより早く来る！

日本海側の地震はプレートの比較的浅い領域で発生するため、津波が高くなる傾向があります。また、震源から陸地までが近いため、津波が早く到達する傾向があります。

◇日本海側で発生する津波の主な特徴◇

- 津波の波源（海水が最初に上下変動したところ）の位置が沿岸に近い。
⇒地震発生後の津波の来襲は東北太平洋側のケースよりも早い。
- 地震の発生場所が浅く、海底面の上下変動が大きい。
⇒地震の規模（マグニチュード）の割に津波が高くなる。
- 波が日本列島と大陸で何度も反射する。
⇒日本海の津波は長時間継続しやすく、収まりにくい。

津波の危険がある場所には、「津波注意」、「津波避難場所」、「津波避難ビル」を示す津波標識が設置されています。海岸に行く際には、予め防災マップを見たり、着いたらまず標識を探したりする等して避難場所や避難経路を確認するようにしましょう。



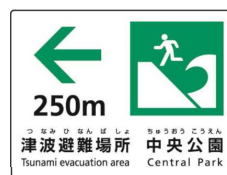
津波注意



津波避難場所



津波避難ビル



津波避難場所の案内版



津波から身を守る方法については気象庁HPの「津波から身を守るために」をご覧ください。

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/tsunami_bosai/index.html